

取材日：2018年7月25日



地域医療



さいたま医療圏

0～100歳まで診る外来の延長としての在宅医療を 医師、看護師、薬剤師を要としたチーム医療で支える。

Point of View

- ① 小児から高齢者まで診る総合診療外来をベースに、医療依存度の高い患者を受け入れて訪問診療を行い、緩和医療や看取りも担う
- ② 在宅医療のチームは、医師や訪問看護師、薬局薬剤師を中心に外来看護師や介護スタッフ、事務スタッフらで構成
- ③ 病院退院後の拠点として回復期、療養期、終末期の医療を在宅で提供

医療法人明医研
ハーモニッククリニック
理事長／院長

中根 晴幸先生

医療法人明医研
ハーモニッククリニック
副院長

中井 秀一先生

医療法人明医研
デュエット内科クリニック
院長

大和 康彦先生

株式会社輔仁
サン&グリーン薬局
管理薬剤師

佐藤 彰浩先生

医療法人明医研
れんけい訪問看護ステーション
管理者

金久保 麻紀子氏

地域医療で重要な柱である 在宅医療にいち早く取り組む

埼玉県さいたま市で地域に根ざしたチーム医療を展開する医療グループがある。2つのクリニックと3つの訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所を運営する医療法人明医研だ。1995年にハーモニッククリニック（以下、ハーモニー）と、れんけい訪問看護ステーションを開設してから20年余りをかけ、地道に地域のニーズに応えながら発展してきたのである。理事長の中根先生が地域医療について考え始めたのは、30年以上も前だった。

「当時、私は、浦和市立病院（現・

さいたま市立病院）の勤務医でしたが、患者さんにとってベストな治療の場合は、必ずしも病院だけではないと感じていました」（中根先生）

たとえば、高齢者や慢性期疾患の患者、がんのターミナルケアを要する患者は、呼吸器管理や栄養管理、疼痛管理ができれば、在宅療養が可能である。ならば、長期にわたる入

院よりも、住み慣れた自宅でかかりつけ医が関与することで自分らしくすごせるのではないだろうか。

「そうした患者さんを早く家にお帰ししたいと思いましたが、当時は在宅医療の受け皿になる施設が十分にはありませんでした」（中根先生）

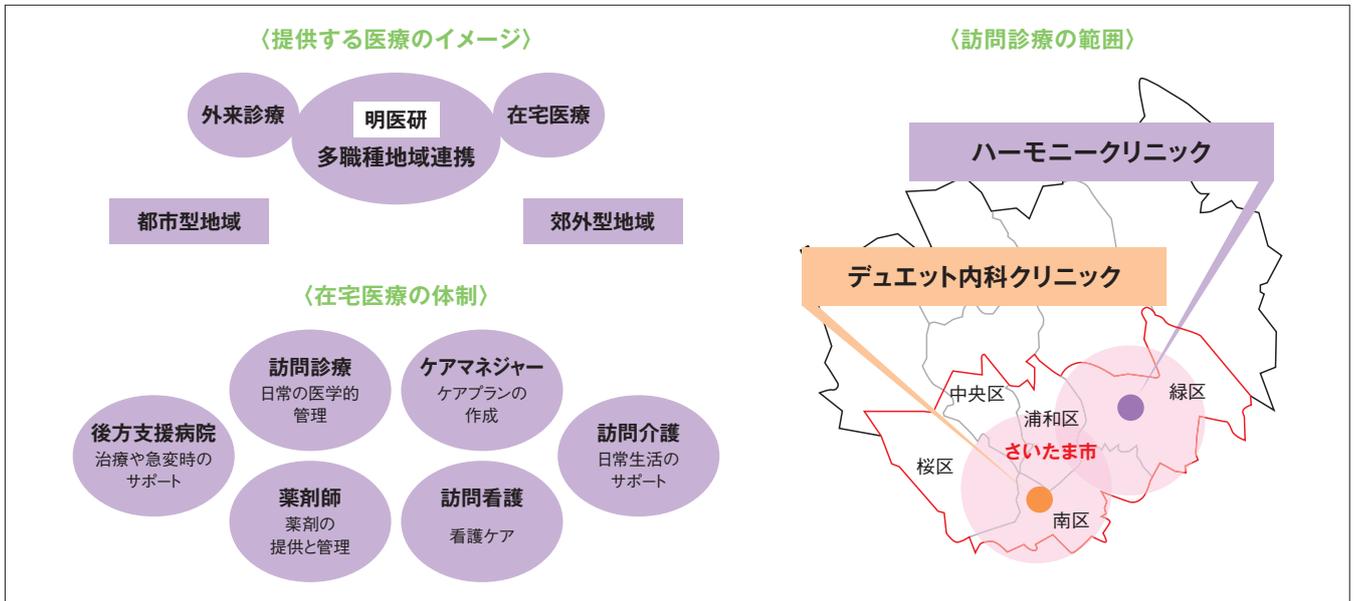
一般の診療所では24時間の対応が困難で、訪問看護は、往診処置の一



左から中根先生、中井先生、大和先生、佐藤先生、金久保氏

【資料1】

明医研の概要



出典：明医研ハーモニークリニックウェブサイト

部として行われる程度だった。「そこで市立病院から地域の医師会や行政に対し、地域連携の考え方を発信し始めたのです」(中根先生)

理解を得るまでに時間はかかったが、1992年には浦和市立病院に20床(現在は47床)の地域医療支援病棟『さくらそう病棟』が開設された。公立の基幹病院の中にありながら開放型病床で在宅を担当するかかりつけ医が病院の主治医と協働して治療が行え、患者家族は病院の看護師から自宅での医療的処置の指導を受けられる病棟だ。

「ただ、確かに地域で患者さんを診

ていく足がかりはできましたが、在宅療養を支える診療所の先生方はまだまだ少なく、地域で在宅医療を診るための資源に課題が残っていました」(中根先生)

中根先生は、病院に勤務しながら在宅医療の発展を待つのではなく、「自分がその任にあたるのが、いちばん早くて確実だ」との思いにいたり1995年、ハーモニーを開設した。

医師、看護師、薬剤師を 要とした強力なチーム医療

ハーモニーは単体でスタートしたわけではない。最初から院内に24時間対応の訪問看護ステーションを併設し、隣接地に協力保険薬局を得て、地域でのチーム医療をめざした。「医師、看護師と薬剤師、これがチーム医療

の要です。

この三者がそろえば、回復期や療養期、終末期の在宅の患者さんの日常の診療を行えるだけでなく、急変時もカバーできます。クリニックの医師と外来看護師が訪問診療、別日の処置は訪問看護ステーションが担い、薬剤や医療資材のサプライは薬局薬剤師に一任する。介護保険制度が始まった2000年からは、介護スタッフが加わってチームはさらに力をつけました」(中根先生)

患者が右肩上がりに増え、より広範囲のエリアをカバーするようになってからは、2つ目の訪問看護ステーション、2つ目のクリニック、3つ目の訪問看護ステーションと施設を増やしていった(【資料1】)。

ハーモニーの副院長を務める中井先生が、現在の診療体制を紹介してくれる。

「ハーモニーとデュエット内科クリニック(以下、デュエット内科)の2つのクリニックをあわせて常勤医



が6名、非常勤医が多数在籍する総合診療科のクリニックで、0歳から100歳までの患者さんを幅広く診ています。神経内科、リウマチ科、血液内科、整形外科などの専門医の先生とも協力しています。

在宅医療では、軽症から重症までさまざまな患者さんがいます。医師の数が充実しているので、お互いにコンサルトをし合えますし、交代制で夜間休日や緊急時にも速やかに対応できます」(中井先生)

中心静脈栄養、胃ろう管理、経鼻経管栄養、在宅酸素、気管カニューレ、人工呼吸器、尿カテーテル、人工肛門管理などから、緩和ケアやリハビリテーションまで。病院の回復期病棟、療養病棟で行われる医療レベルを維持した在宅医療・ケアを提供し、当然ながら看取りも行う。

「私たちの在宅医療の特徴は、医療依存度の高い患者さんの割合が多い点でしょう」(大和先生)

デュエット内科の院長の大和先生が話す。

「治療が複雑で、多くの処置や急変時の対応が必要な疾患、主にかんや重症小児ですが、そのような患者さんの在宅医療を引き受けられる医療機関は少なく、だからこそハーモニーとデュエット内科では積極的に診ていく姿勢を示しています」(大和先生)

サプライを担う薬局薬剤師 橋渡しを務める訪問看護師

チームの一翼を担っている薬剤師の立場から話してくれるのは、サン&グリーン薬局の管理薬剤師、佐藤先生である。

「薬剤師が患者宅へ出向くということの意義が理解されていないときから、私たちは在宅訪問をし、患者さ

んのお家で薬剤の管理や服薬指導を行い、医師や看護師とは異なる薬学的な気づきや、本人・家族の思いをくみ上げ、チームで共有するとともに、薬物治療の提案をすることで患者さんをサポートしてきました。

また、在宅医療において物品のサプライも薬局薬剤師の大事な役割のひとつと考えてい

ます。必要なとき、必要な場所に、必要な薬剤や器具を供給する。街の保険薬局ですからそろえられる品目には限りがあります。ただ、基幹病院と同じ物品(商品)でなくても、薬局で備蓄している物品を代替提案することで対応できるケースがほとんどです」(佐藤先生)

れんけい訪問看護ステーションの管理者の金久保氏も、20年来のチームの一員だ。

「ハーモニーのチームに加わってからは、訪問看護一筋できました。医師と外来看護師の訪問診療は、週に1、2回〜月に2回くらい。訪問看護は、その間を埋めるように行います。つまり、患者さんのお宅を訪れる回数も、処置をしながら会話をする時間も、私たちがいちばん多いのです。

したがって、患者さんからの情報をもっとも得やすいのは私たち訪問看護師なので、それを治療やケアに有効に生かせるよう、医師の訪問診療の質に寄与できるよう、橋渡し役を務めています」(金久保氏)

「我々の2つのクリニックの理念は

【資料2】

毎日実施される 多職種インターネットカンファレンスの様子



出典：中根先生提供資料

『WARM(温かく)&RELIABLE(信頼に足る)』。特に、『温かく』については、看護師たちに負うところが大きいですね」(中根先生)

多職種のカンファレンスを 支える事務スタッフの力

チーム医療においては、情報共有と円滑なコミュニケーションが不可欠だが、その点にもハーモニーとデュエット内科の2つのクリニックのチームならではの工夫がある。

「両クリニックでは、インターネット回線を利用したカンファレンスを毎日夕方に20分程度、医師と訪問看護師、外来看護師、医療秘書科や医事科などの事務スタッフ、そしてサン&グリーン薬局の薬剤師が集まって行います(【資料2】)。ほかに最低週に1回、金曜日の昼などに情報共有のためのミーティングも」(中井先生)

「デュエット内科でもハーモニーと毎日のインターネットカンファレンスと、昼休みの時間を利用し、各職種最低1名が参加したカンファレン

スを行っています。

金曜のハーモニーとの合同カンファレンスは、主に土日に備えてのもので。重症の患者さんや経過が気になる患者さんについて、迅速にサポートを行えるようディスカッションをします」(大和先生)

それぞれに職種や勤務時間帯が異なる多数のスタッフが集まる貴重な場ゆえに、カンファレンスは過不足なく効率的に進める必要があるが、それにしてもハーモニーの20分というのは短い。

「普通に考えると20分では無理でしょう。しかし在宅医療にかかわる事務スタッフが、きちんと情報を管理してくれているので可能なのです」(中根先生)

外来診療の延長線上にある在宅医療のいっそうの充実を

2つのクリニックにとって在宅医療は、あくまで外来診療の延長線上に位置する。

「外来診療こそが、地域との結びつきをつくってくれるきっかけ。かかりつけ医として日常的に診てきた患者さんが通院できなくなったときには、訪問診療をしましょうというスタンスです」(中根先生)

「近年は、在宅専門診療所も増えてきていますが、私も総合診療外来が主で、在宅はその一部という体制が望ましいと考えています。外来で時間をかけて患者さんやご家族と信頼関係を築き、その信頼にもとづいて在宅診療を行うからこそ、真に患者さんを支援できるのではないのでしょうか」(大和先生)

「親子孫と3世代、4世代にもわたるご家族を継続して診られるのは、プライマリ・ケア医にとって、たいへんやり甲斐のある仕事です」(中

井先生)

中根先生は、クリニックの外来診療のレベルアップを常に図りつつ、外来と同等の医療を在宅でも提供できるチームをつくってきた。今後も方向性は変わらないのだろう。そのうえで、将来に向けて考えていることを聞いた。

「在宅の分野で、我々のクリニックがグループ外の訪問看護ステーションやヘルパーステーション、保険薬局と連携したり、当グループの訪問看護ステーションが他の診療所と連携したりするケースも増えてきています。そうした連携は、積極的に進めていきたいと思っています。

また、地域の病院からの紹介は以前から多かったのですが、地域の診療所からの紹介にも『いつでもお役に立ちます』とのスタンスで、連携関係を深めていくつもりです」(中根先生)

つづけて各先生方からも、今後の希望やビジョンが語られる。

「日本在宅医学会認定専門医や総合診療専門医の研修施設として、あるいは医師だけでなく多職種の医療スタッフの見学先としても、ぜひ当院を活用していただきたい。教育や人材育成の面で、今まで以上に貢献していきたいと願っています」(中井先生)

「最近、看護学生時代に当院で実習した看護師がデュエット内科に併設する訪問看護ステーションに入職してくれました。まいてきた種が今、芽吹き始めているのです。これからも若い人を育て、地域の中でのチームづくりを活性化させていきます」(大和先生)

薬剤師の佐藤先生は、「調剤に特化でも訪問に特化でもなく、幅広く地域に向けて開いた『健康サポート薬局』として、市民を医療につなぐ

最初の窓口をめざしたい」と言う。訪問看護師の金久保氏は、「看護のレベルを上げるよう研鑽しつつ、他院の医師の方々からもさらに信頼していただけるよう、訪問看護の技術力や知識、情報量をアピールしていきたい」と語る。チームのメンバーの声を受けて、最後に中根先生がまとめてくれた。

「地域医療、在宅医療、チーム医療をめざして、23年前に実践の場に踏み出し、今があります。頼もしい医師やスタッフたちがそろってくれ、思い描いた医療の多くを実現できました。

ですが、地域で求められる医療はますます質、量ともにレベルが高まっていくでしょう。それらに応えられる医療グループであるために力を惜しまず突き進んでいきます」(中根先生)

医療法人明医研 ハーモニークリニック

〒336-0918
埼玉県さいたま市緑区松木3-16-6
TEL: 048-875-7888

医療法人明医研 デュエット内科クリニック

〒336-0021
埼玉県さいたま市南区別所6-18-8
TEL: 048-866-7350

株式会社輔仁 サン&グリーン薬局

〒336-0918
埼玉県さいたま市緑区松木3-16-11
TEL: 048-875-6360

医療法人明医研 れんけい訪問看護ステーション

〒336-0918
埼玉県さいたま市緑区松木3-16-6
ハーモニークリニック2階
TEL: 048-875-7898